

# 組込み系開発のアーキテクト ～アーキテクトをどのように育てるのか～

■主催：ソフトウェア事業委員会

■担当部署：インダストリシステム部

■参加者数：約90名

## 概要

日本の組込み系ソフトウェア開発の強みは、擦り合わせによる高品質開発にあると言われていますが、大規模化・複雑化・短納期化・多機種化の潮流の中で、国際競争力を今後も維持していくことが難しくなってきました。

このような状況への対処として、欧米流のアーキテクチャ設計の導入・強化が注目されており、そのためにアーキテクトが必要であると言われています。しかし欧米流の手法を模倣するだけでは却って競争力が損なわれる危険性もあり、今こそ日本の強みを生かすアーキテクト、日本の擦り合わせ型開発に合ったアーキテクトを見出していく必要があると考えており、前回のワークショップでは、日本の組込み系アーキテクトは何を解決するのかということから議論をしました。

そこで、今回のワークショップでは、このようなアーキテクトをどのように発掘し育成していくのか、または自ら育てていくのかから始め、ワークショップの参加者とともにアーキテクトの育成について考えました。

今回、早稲田大学の岸 知二教授の基調講演を皮切りに、

三菱電機メカトロニクスソフトウェアの岩橋 正実氏と富士通研究所の武 理一郎氏によるアーキテクトの事例講演をしていただき、最後に“全員参加105人ワークショップ：徹底議論！アーキテクトの育て方”と銘打った討論セッションで、参加者全員の方に自由にご意見、ご質問をして頂き、活発な議論を行うことが出来ました。



## プログラム

○開会の挨拶「ソフトウェア事業基盤専門委員会の活動について～ワークショップ2013の狙いと課題認識」

JEITA ソフトウェア事業基盤専門委員会 委員長 五味 弘 氏（沖電気工業㈱）

○基調講演「アーキテクト～期待と現実～」

早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科 岸 知二 教授

○事例講演1「アーキテクトは育てられるか -富士通での取り組み-」

武 理一郎 氏（㈱富士通研究所 ヒューマンセントリックC研究所 主席研究員）

○事例講演2「課題解決型アーキテクチャ事例とアーキテクト育成の取り組み」

岩橋 正実 氏（三菱電機メカトロニクスソフトウェア㈱ 和歌山支所 副支所長）

○全員参加型105人ワークショップ「徹底議論！アーキテクトの育て方」